

司祭叙階ダイヤモンド・金祝

おめでとうございませす

ダイヤモンド祝 (60周年)



デウイルデ ミシェル神父 (淳心会)

1938年11月7日、ベルギー生まれ。63年8月4日司祭叙階。64年来日。来日後、藤井寺教会にて助任を務める。その後、主に広島教区で司牧し、73年には医療の道へ進み、91年まで看護師として医療に携わる。91年からカトリック岡山

檣灯センターの所長に就任し、障がいを持つ人びとの作業所を長年に渡り運営し、2019年より仁豊野レジデンスにて静養。侍者を小さな頃からして、その影響を受け、宣教師を目指したいと思っていました。また神を知らない人たちに神を知るチャンスを与える人になりたいと思っていました。看護の道を目指したのも、言葉以上に自分の体を動かして関わり、病気の人や看護を通して宣教をしたいと思ったからで、技術よりも精神的なケアに努め、その経験は私の宣教生活をより豊かなものにしてくれました。

ダイヤモンド祝 (60周年)



マンニ・ピエル・ジョルジョ神父 (ザベリオ宣教会)

1940年11月9日イタリア生まれ。1963年10月13日司祭叙階。高校までは教区司祭になろうと思いましたが、アジアで働く宣教師の感動的な話を聞いて、彼と同じ道を歩もうと思ひ、ザベリオ会に入会しました。

司祭叙階後日本に派遣され、1964年9月25日、第一回東京オリンピック開催直前に来日しました。神戸で日本語習得コース終了後、泉野野教会に派遣され、徐々に大阪教区の諸活動にかかわり、貴重な経験を体験しました。当時、長崎県から泉野野に移住してきた信者家族と青年が多く、素朴な生活、熱心な信仰や温かい性格に触れ、大好きな仲間となりました。その時から大阪教区内の小教区、幼稚園やザベリオ会の本部等で働かせていただき、心は感謝でいっぱいです。これからの日々を神さまのいつくしみにお任せします。

金祝 (50周年)



ヨセフレナトゥス 笹野克志神父 (オプス・デイ)

1938年9月6日ブラジル生まれ。1973年8月5日叙階。神様との出会い。大学一回生の時に、オプス・デイのメンバーの同僚に、司祭の話の聞きに

来ないかと誘われました。司祭の話と聞いて、断りました。でもその友人は6カ月間、毎週私を誘ってくれました。毎週断りました。神様の働きは不思議ですね。当時、仲の良い友人が熱心なプロテスタント信者だったので、ある日、彼に宗教について教えてくれと頼みました。すると、彼は自分にはその資格がないので、司祭か牧師さんをお願いしてみたらどうだと言いました。その時、またオプス・デイの同僚が私を誘ってくれました。その後、毎週司祭の話の聞き、主イエスに出会い、洗礼を受けました。10年後叙階を受けました。それから50年が経ちました。全て神様の御導きです。神様に感謝!

金祝 (50周年)



リチャード・サーティック神父 (大阪教区)

1942年9月10日、アメリカ合衆国生まれ。1966年、シカゴの御受難修道会に入会。73年司祭叙階後来日。79年、兵庫県宝塚市に移動。黙想指導に専念する傍ら、ハンディキャップを持つ人、病人のための黙想会にも赴き、「マザーテレサ共労者会」などにも参加する。87年、

御受難会を退会し、大阪教区司祭となる。同年京都府の山奥の廃村を開墾し、「真理庵の郷(祈りと労働と憩いの村)」を開村する。京都府丹波町(現在の京丹後市)に居住を移す。1990年、「真理庵の郷(祈りと労働と憩いの村)」を開村し、2020年に閉村するまでの30年間を当地で過ごす。現在は心臓ペースメーカーと、酸素ボンベ装着の生活だが、感謝と祈りのうちに、療養中。

金祝 (50周年)



ハインリッヒ 中野正勝神父 (大阪教区)

1944年2月29日兵庫県生まれ。1973年4月7日ドイツで司祭叙階。召命と叙階を何よりも喜んでくれた亡き母の愛と真心。洗礼の神父様。大神学校の哲学修了後、留学したフランクフルトのイエズス会の聖ゲオルグ哲学神学大学(神学校)の院長神父様と同僚神学生たち。その教区のリンブルク司教座教会主任神父様と賄さん。アメリカ

カの恩人等々。どれだけ多くの方々の真心に支えられて司祭叙階されたことか。その後、田口芳五郎枢機卿様のご意向で、ローマの神学大学院へ再び留学(神学博士)。司祭としてヴァチカンを体験。帰国後は、英知大学で(学長も引き受け)組織神学を教えながら教会の主任司祭として司牧。更に博士論文で扱った『啓示された三位一体なる神の日本の理解への一試論』を反映させた関目教会の新築と献堂。所で今迄の赴任教会は園田・大阪田辺・関目・箕面・芦屋・豊中教会で、現在は平野教会協力司祭ですが、それぞれの教会での皆様との心の籠った沢山の楽しい思い出を有難うございました。

金祝 (50周年)



セバスチアン 藤原直達神父 (大阪教区)

1944年11月30日大阪生まれ。1973年10月28日司祭叙階。東京カトリック神学院(養成担当者)からはじまり、阿倍野・関目教会・幼きイエス信愛修道院(現シヨファイユの幼きイエズス修道会)付・トラピスチヌ西宮の聖母修道院付・布施・浜寺・千里ニユ

1タウン教会。1994年以降は心のいやし自助グループ・内観黙想の普及。2018年以降トラピスチヌ西宮の聖母修道院付。50年前のカテドラルでの司祭叙階式の体験が、全ての原点です。田口芳五郎大司教様は聖香油を私の手にグイグイと念入りに塗油なさいました。その時、罪に汚れた私の手が聖体を捧げる聖なる手に聖変化された時、急に何とも言えない大きな感動に襲われ、その場で嗚咽が始まりました。その後、その後も相変わらずの傲慢で罪深い人間として過ごして来ましたが、50年間の特別な召命を思い出して参りました。神に感謝です。

金祝 (50周年)



ハイメ・シスネロス神父 (クラレチアン宣教会)

1947年1月16日メキシコ生まれ。1973年6月29日司祭叙階。『人の救い』のため神父になろうと望んで、12歳に小神学校に入り、子どもの時の夢が実現して、73年6月29日司祭叙階を受けました。最初、自分が生まれた国メキシコで、司祭の奉仕を3年間過ごした後、日本に派遣されました。東京都で日本語を学んで、日本の文化、日本の教会に出会い、50年となりました。大したコミットをしていますが、仲間や信徒によって支えられてきたような気がします。感謝と喜びで一杯です。

今の自分の司祭像に感じる課題は、信仰と生活の霊性、宣教と社会問題を取り組む知恵と力を願う求めることです。趣味は野外活動、特に散歩。静かに聖句を祈る、祈りの分かち合い。どうかわたしのため祈ってください。

経歴とコメントはご本人からいただきました。

